

(一社) 日本運動・スポーツ科学学会 国際健康・スポーツ分科会機関誌
「スポーツと開発」投稿の手引き (電子発行版)

目次

- I. 投稿原稿の種類
- II. 投稿について
- III. 原稿作成上の注意

I. 投稿原稿の種類

- 1. 「スポーツと開発」編集委員会では、機関誌の掲載に相当であると認めた論文を以下の「論文に関する基準」に基づき種別する。

1) 総説

限定した研究領域に関する文献を中心に総覧したものであって、当該研究領域を体系的に述べてあるもの。

2) 原著論文

以下の各要件項目を充足していると認められた論文。

- ① 学術論文として完結していること。
- ② 「スポーツと開発」の研究領域の発展に寄与できる論文であること。
- ③ オリジナル性が高く新知見を含んでいること。
(「スポーツと開発」に関する新しい研究の方法・分析方法・実験方法の開発も含まれる。)
- ④ 研究の方法・分析方法が適切であり、データ分析においては標本数も十分であること。
- ⑤ 先行研究もあり、引用文献も十分にあること。

3) 研究報告

原著論文に比べて若干、資料数や分析方法に不十分さが残るが、オリジナル性や新知見を含んでいる論文で、その結果を報告することにより、「スポーツと開発」の研究領域の発展に寄与する速報性を認められた論文。

4) 事例報告

「スポーツと開発」の実践現場における事例など直接的に研究に結びつけた論文で、オリジナル性があり新知見を含んだ論文。

II. 投稿について

必要事項を記入の上、下記ウェブサイトアクセスし、「『スポーツと開発』投稿規定」にしたがって投稿する。

- 1. 原稿は、投稿規定にしたがって作成し、ウェブサイト (<https://internationalhealthandsport.jimdofree.com>) から「著作権渡権承諾書」、「投稿論文チェック表」をダウンロードし、必要事項を記入の上、メール

で投稿論文と一緒に提出する。

1) 「著作権譲渡承諾書」について

「著作権譲渡承諾書」に論文タイトル（和文、英文の両方）を記入し、内容を確認の上、著者全員が直接署名し、署名した日付を記入してスキャナー等で取り込んだ後、メールで投稿論文と一緒に提出する。

2) 「投稿論文チェック表」について

投稿者（主著者）、論文タイトル（和文、英文の両方）を記入し、下記内容について確認・チェックし、最後に責任著者の氏名を直接署名する。署名後、スキャナー等で取り込んだ後、メールで投稿論文ならびに「著作権譲渡承諾書」と一緒に提出する。

記述

- 原稿は、「投稿規定」および「投稿の手引き」の書式にしたがって記述した。
- 全角 40 字×30 行で作成した。
- 2 頁目以降に、頁毎に行番号および頁番号を挿入した。
- 英文抄録を作成し、英文校正を実施した。
- 図表や写真の番号と本文中の番号は一致している。
- 図表や写真は、そのまま電子発行できるレベルである。
- 文献は、引用順にできている。
- 本文中の引用と文献との番号が一致している。
- 引用・文献の記載は、手引きにしたがって作成した。
- 謝辞や付記は記入していない。

その他

- 「著作権譲渡承諾書」、「投稿論文チェック表」、「英文校正証明書」がそろっている。
- 「著作権譲渡承諾書」に、すべての著者が自署している。
- 筆頭著者の（一社）日本運動・スポーツ科学学会の入会および年会費の納入は終わっている。

2. すべての資料は、「スポーツと開発」編集事務局 (jsofsandds@gmail.com)宛てで、メールにて送付する。

Ⅲ. 原稿作成上の注意

1. 原稿のフォーマット

- ・原稿は、ワードプロセッサで 11 ポイントの活字、A4 版横書き、上下左右に 3cm の余白を取り、1 頁全角 40 字×30 行とする。フォントは、和文は「MS 明朝」、英数字は「Times New Roman」とする（ただし、見出し語は、和英数字全て「MS ゴシック」とする）。また、本文はひらがな現代かなづかいとし、外国語をかな書きにする場合は、カタカナ（全角）にする。
- ・英文原稿および和文原稿内の英文綴り・数値は半角とする。
- ・1 頁目に、(1) 論文タイトル（和文および英文）、(2) 論文種別（総説、原著論文、研究報告、事例報告のいずれか）、(3) 全ての著者名（和文および英文）、(4) 全ての著者の所属先（和文および英文）、

(5) 責任著者の E-mail アドレスおよび電話番号、を記す。

- 2 頁目以降に、(1) 論文タイトル (和文および英文)、(2) 論文種別 (総説、原著論文、研究報告、事例報告のいずれか)、(3) 和文抄録・和文キーワード、(4) 英文抄録・英文キーワード、(5) 本文、を記す。
- 2 頁目以降には、頁毎に行番号を入れ、頁下部中央に頁番号をつける。その際、1 頁には頁番号を記載せず、2 頁目に「1」の番号が記載されるようにする。

2. 論文作成上の注意

1) 論文タイトル

論文タイトルは、和英文共に研究の内容を的確に表現しうるものであることが必要である。副題をつける場合は、和文タイトルでは、改行しダッシュ (—) ではさむこと。ただし、英文タイトルの副題は、半角コロン (:) を先頭に付ける。英文タイトルにおける主題・副題の最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第 1 文字を大文字にすること。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外は全て小文字とする。

2) 所属機関名および同所在地

所属機関名は著者、共著者共に、省略せず正式名称を書くこと。

- (1) 大学の所属機関が学部の場合は学部名を、大学院の場合は研究科名を明記すること。
- (2) 官公庁や民間団体の場合は部課名まで記入すること。

3) キーワード

キーワードは、論文の内容や特色を的確に示し、検索に役立ち得るものとする。題目はそのまま検索の対象となるので、題目に含まれていないものをキーワードとして記入すること。なお、和文原稿の場合、キーワードは 3 から 5 つまでを、和文と英文の両方で作成すること。ただし、英文原稿の場合、和文のキーワードは不要とする。

3. 本文

1) 見出し

見出し語は適宜用いることができる。

2) 符号

次のような符号を用いることができる。

- (1) ピリオド (.) およびコンマ (,)
- (2) 中黒 (・)

相互に綿密な関係にあつて、一帯となる文字や語句などを結ぶ場合には中黒 (・) を用いる。

アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使えない。

例) 被験者 Y・Y→Y.Y.

- (3) ハイフン (-)

これは対語・対句の連結、合成語、頁の表記に用い、半角とする。

(4) ダッシュ (—)

全角1文字分のダッシュ (—) は期間や区間を示すのに用いる。波ダッシュ (～) は原則として用いない。全角2文字分のダッシュ (——) は注釈的な説明をすることに用いる。

(5) 引用符は、和文の場合には「 」を、英文の場合には“ ”を用いる。

(6) コロン (：)

説明、引用文などを導く場合に用いる。

(7) セミコロン (；)

複数の文献が連続する場合に用いる。

(8) 省略符 (…)

引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、和文の場合には3点リーダー (…)、英文の場合には下付の3点リーダー (...) を用いる。

3) 数字

(1) 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用いる。

(2) 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記する。

4) 単位

計量単位は、原則として、国際単位系 (SI 単位系) とする。

5) 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、(以下「……………」と略す) と添え書きしてから、以後その略語を用いるようにする。

6) 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用する。引用した文献はすべて文献表に掲載する。本文中の文献は原則として引用した文章の右肩に文献番号を上付きで示す。同一著者の文献が複数ある際には、2つの場合は括弧内の数字を半角コンマ (,) で、3つ以上の場合はハイフン (-) でつなぐ。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。2名での共著の際には、和文の場合は中黒 (・)、英文の場合には“and”を用いて、著者名を続けて明記する。ただし、3人以上の共著の際には、和文の場合は筆頭筆者の名字の後に「ほか」を、英文の場合は筆頭筆者のファーストネームの後に「et al.」を用いて、第2著者以降の著者名を省略する。

(1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくる。

[例]

「スポーツの開発」¹⁾ という語句は……

“development of sport”¹⁾ の視点……

齊藤ほか¹⁾ によれば……

岡田^{1,2)}による一連の研究では・・・
齊藤・岡田¹⁾によれば・・・
Chappell¹⁾によれば・・・
Yamada et al.¹⁻³⁾の一連の報告によれば・・・

- (2) 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とする。

[例]

ハリンダー¹⁾は・・・

- (3) 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記(2)にしたがって記入する。原著は英文表記とする。

[例]

Kimura²⁾によれば・・・しかしながら、キムラ²⁾のスポーツ開発論では・・・
Sakita³⁻⁵⁾の一連の著作では・・・

7) 注記

注は本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用いる。その数は最小限にとどめること。注をつける場合は、本文のその箇所に注¹⁾、注²⁾、のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は「注」とする。

8) 特殊文字

(1) ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用し、本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用は避ける。

(2) イタリック

次の場合にはアンダーラインを用いてイタリック体を指定することができる。

- ①数式中の数
- ②数値や量
- ③統計法に用いられる記号
- ④動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリック体を使用することは、引用の場合などを除いて避ける。

(3) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインは使用しないこと。

4. 図表の作成

図表には、それぞれに必ず通し番号とタイトルをつける。作成する場合のフォントの大きさは、和文の場合は「MS 明朝」で、英文及び和文の英数字は「Times New Roman」で8ポイントを目安とすること。

なお、表注は表の下に一つ一つ改行し、注符号は上つきダガーで†, ††, †††などの順に用い、アスタリスク(*, **, ***)は統計学上の有意水準を示すときにのみ用いるものとする。

写真はカラーまたは白黒の鮮明な画面のものとし、画素数が 300dpi のファイルで投稿すること。

5. 文献について

原則として文献表を本文の最後に引用順に一括して掲載し、本文中の右肩か、著者名の右肩に末尾の文献出典記載に照応する文献番号をつけること。

文献表の作成

文献表の見出し語は「文献」とする。文献の記載は引用順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目（書名）・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれる。書式は原則として、下記の例にならること。

1) 定期刊行物（いわゆる雑誌）の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名（発行年）論文名・誌名、巻（号）：ページ. の順とする。基本的には、ピリオド（.）、コンマ（,）、カッコ（（ ））、コロンの（:）などの記号およびスペースは、和文の場合は全角、英文の場合は半角で用いる。

(1) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合にはコンマ（,）で続ける。英文の場合には、2名の場合は“and”で、3名以上の場合にはコンマ（,）で繋ぐ。発行年は著者名のすぐ後の（ ）内に記入し、論文名と区切る。著者名の前に掲載順を記す。

[例]

白石智也, 齊藤一彦, 山平芳美, 下宮秀斗 (2020)

Kevin Y. and Okada C. (2014)

Nicholls S., Giles A., Sethna C. (2011)

(2) 論文名

論文名の最後はピリオド（.）を打つ。英文では、主題・副題の最初の文字だけを大文字にする。その他は、固有名詞など、特に必要な場合意外は全て小文字とする。

(3) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載する。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法にしたがう。それ以外は省略しない。誌名の最後はコンマ（,）をつける。

(4) 巻号およびページ

巻数の後にコロンの（:）をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン（-）で結び、最後にピリオド（.）を打つ。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を（ ）で巻数の後に示す。

[例]

1) Darnell S. and Hayhurst L. (2012) Hegemony, postcolonialism and sport-for-development: A response to Lindsey and Grattan. *International Journal of Sport Policy and Politics*, 4(1): 111-124.

2) 白石智也, 齊藤一彦, 山平芳美, 下宮秀斗 (2020) 青年海外協力隊体育隊員に関する研究の実態と課題の整理. *運動とスポーツの科学*, 26 (1) : 77-86.

(5) 早期公開論文

正式に発刊される前の早期公開論文を引用する場合は、以下の例を参照し、巻(号)、ページの代わりに「Digital Object Identifier (略称: DOI)」を記載すること。発行年は、早期公開年となる。

[例]

- 3) Lee K., Kouzaki K., Ochi E., Kobayashi K., Tsutaki A., Hiranuma H., Kami K., Nakazato K. (2013) Eccentric contractions of gastrocnemius muscle-induced nerve damage in rats. *Muscle Nerve*, DOI: 10.1002/mus.24120.

2) 単行本の書き方

単行本の書き方の原則は、定期刊行物の項にしたがう。

(1) 単行本の場合

著者名(発行年)書名(版数、ただし初版は省略)。発行所:発行地, 引用ページ. の順とする。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略する。また、編集(監修)書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記する。英文では、編集者が1人の場合は(Ed.)、複数の場合は(Eds.)をつける。

[例]

- 4) 白旗和也編著(2011) 小学校体育授業の重点指導—高学年編—。明治図書出版:東京。
5) 日本体育学会学校体育問題検討特別委員会訳(2011) 世界学校体育サミット—優れた教科「体育」の想像をめざして—。杏林書院:東京, 22-32。
6) 木村寿一(2015) 教育とスポーツ I。齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文編著, スポーツと国際協カースポーツに秘められた豊かな可能性—。大修館書店:東京, 92-108。
7) Tsangaridou N. (2006) Teachers' beliefs. Kirk D., Macdonald D., O'Sullivan M. (Eds.) *The handbook of physical education*. Sage Publications: London, 486-501.

(2) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン(:)をつけて訳者の姓名を記入する。共訳の場合は中黒で、訳者が3人以上の場合は「:…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入する。英文の翻訳書の場合、原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に<>内に付記する。

[例]

- 8) メリアム≡: 堀薫夫ほか訳(2004) 質的調査法入門—教育における調査法とケース・スタディー—。ミネルヴァ書房:京都。< Merriam S. B. (1998) *Qualitative research and case study applications in education* (2nd ed.). Jossey-Bass: San Francisco.>

3) WEB サイトの場合

WEB サイト(いわゆるホームページ)や WEB サイトに掲載されている PDF ファイルなどを参考文献とする場合、「URL が変更される」、「内容が変更される」、「WEB サイト自体が閉鎖される」、「文責が曖昧である」などの問題がある。そこで、WEB サイト上の資料は、(1)他に参照可能な公刊物(書籍や学術雑誌等)がないことの確認、(2)著者名と題目およびサイトの名称の確認、(3)参照時の URL および日付の記録、(4)内容の適切な保存(当該ページのプリントアウトや PDF、スクリーンショット等)、を行った上で用いることができる。そして、文献表には「著者名(発行

年もしくは「Online」) WEB ページの表題名、WEB サイトの名称、URL (参照日)」をできる限り詳細に記載すること。なお、学術団体等が発行する電子ジャーナルなどは、「1) 定期刊行物」として扱う。

[例]

9) Sport for Tomorrow (Online) 活動レポート、Sport for Tomorrow HP、<https://www.sport4tomorrow.jp/nsport.go.jp/jp/report/> (参照日 2020 年 5 月 4 日)

6. 英文抄録について

必ず、英文抄録 (300 語以内) および和文抄録 (原則英文抄録の和訳) (600 文字以内) を作成すること。また、英文抄録の英文校正証明書を別途添付する。英文による投稿の際には、全文の英文校正証明書を添付する。

1) 英文抄録の作成にあたっては、特に次の点に留意すること。

- (1) 日本国内で知られている固有名詞でも、海外の読者に知られていないようなものについては、簡単な説明を加えること。
- (2) コンマ (,) およびピリオド (.) の後は半角スペースを空けること。

7. 謝辞、付記など

公平な審査を期するために、謝辞および付記などは原稿「受理」後に書き加えることとし、投稿時の原稿には入れない。

8. 審査

- 1) 投稿原稿における掲載の可否は、査読審査をした後、編集委員会が決定する。
- 2) 著者が返送期日を超過しても修正原稿を提出しない、あるいは連絡が無い場合は取り下げたものとみなす。
- 3) 査読は原則 2 回までとする。ただし、査読後の再提出論文に対して、査読コメントに対して適切な修正がなされていない場合に限り、査読が 3 回以上行われることや、「スポーツと開発」編集委員会がさらに修正の指示をすることがある。
- 4) 掲載論文の著者校正は初校のみの 1 回とする。

<令和 3 年 8 月 30 日制定>

<令和 4 年 4 月 1 日改正>

<令和 5 年 4 月 1 日改正>